

1988.6.10

No. **2833**

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄 分割・民営化「反対」三里塚二期工事阻止？

原地・原転奪還まで闘うぞ！

6・7地労委闘争に決起

丁尺は清算事業団の仲間を採用しろ。

六月七日、清算事業団に送られた十二名の仲間
の「JR不採用」について、千葉県地方労働委員
会に不当労働行為の救済を求めた、申し立ての第
一回調査が開催された。

十二名の仲間たちは、国鉄が解体され、「JR」となつて以降、すでに一年以上も、何の仕事もなく、清算事業団に閉じこめられている。今だ何故、どのような理由で「JR不採用」となったのか、ひとつ説明すらされていないのである。法で定めた定員を大幅に下まわる状況であるにもかかわらず、JRは、動労千葉の組合員のみ十二名を事実上解雇し、清算事業団に送つたのである。

九州や北海道では、今も五千名もの仲間たちが同じ状況の下におかれ、怒りを燃やし続けて、闘いぬいている。

動労千葉や国労の組合員であることのみをもつて何の理由もなく首を切るといふ、まさに法も道理もない暴挙を強行した「国鉄分割・民営化」の予盾が、「五千名の清算事業団問題」という形で、存在しているのだ。つまり、清算事業団の闘いは、分割・民営化体制そのものを打ち崩す力となつて、敵のノド元を直撃しているのである。

われわれは、組織の総力をあげて、十二名の仲間
の原職奪還をかちとる決意である。

J R 東日本、J R 貨物は十二名の仲間をただちに原職採用しろ！ ただちに違法行為をやめろ！

千葉駅前でJR当局弾劾の街宣
地方委に“門前払い”を懇願するJR当局



この日、十六時から第一回調査に先だつて、千葉駅前に集合した三五名の地労委闘争代表団は、十四時半より、駅頭街宣をおこなつた。街宣隊は、宣伝カー、プラカード、横断幕、そしてピラによつて、清算事業団が、まさに真綿で首をしめ、自ら国鉄を去つて行くようし向けるための「収容所」であること、何の理由もなく、動労千葉の組合員であることだけをもつて選別され、採用されなかつたことな

ど、清算事業団・JR当局の違法行為を次々と暴露し、市民に訴えた。市民の反応は「本当にこんなことが今も続いているんですか？」と、この人権じゅうりん人に驚き、信じられないという様子である。しかし、これは真実なのだ。

十五時半、予想以上の反応に、意気も高く代表団は地方委へ。

第一回調査では、組合側が証人として申請した中野勤労千葉委員長を、審査委員長が採用したことに対し、会社側は、驚きあわて、「JRへの採用手続きは、昨年二月十六ごろなされたのだから、本件の申し立ては、一年の申し立て期間をすぎてしまっており、無効だ。証人など採用してもらうては困る」と、まさにデタラメな理屈をならべて、「門前払いにしろ」と、主張したのである。これは敗北宣言だ。まともに論争をすれば、その違法性がたちどころにあらわとなってしまうので「門前払いにしろ」と懇願することだけが、JR当局の「方針」なのだ。

このJ R当局の反動的策動を許さず、地方委闘争、裁判闘争、そして、全職場からの大衆闘争の力をもつて、十二名の仲間の原職奪還をかちとろう。

訂正 6月9日付2833号は2832号の誤りでした・訂正いたします。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！